

静岡県立三島南高等学校第4回学校運営協議会議事録

1 開催日時

令和7年2月18日(火) 開会：午前10時30分 閉会：午前12時30分

2 開催場所

静岡県立三島南高等学校 会議室

3 出席委員数

5人（会長 三田章裕、副会長 大島孝博、委員 山下巖、鈴木廣幸、寺村智穂）

4 校長挨拶

今年度特徴的な取組の一つとして、先週「カジュアルデー」を実施した。新聞やテレビでも大きく報道された。

発端は昨年の夏の猛暑時にエアコンがきかなくなったことで、教室を移動するなど工夫をして乗り切ったが、学校に出来ることには限界があり、生徒自身が自分たちで過ごしやすい服装を考えてもらうこともありなのではないかというところから始まった。これから夏に向けて良い体制ができればと思っている。

また、来年度に向けて学校運営協議会の三田会長、鈴木委員、村上委員の3人が交代する。三田さんについては、長きに渡り会長をお務めいただき、いつも教職経験に裏打ちされた示唆に富んだ温かい言葉をいただいた。鈴木さんについては、地域の目で学校内部を見ていただき貴重な御意見を聞くことができた。村上さんについては、残念ながら本日欠席されているが、保護者代表として、生の声を届けていただいた。

5 議 事

(1) 令和6年度学校評価について

（三田会長）

別紙資料に記載のとおり、項目ごとに学校評価、関係者評価がされている。非常に多岐に渡っており、時間の都合で「B」評価とされている項目について御意見を伺うこととしたい。

イ ②「教材や教え方に工夫があり、授業内容が充実」と回答する生徒80%以上

③「自主学習をよくしている」生徒 前年度以上

（教 頭）

生徒にアンケートを取ったところ、1年生の回答率が低かった。分析してみると、中学校時代との学習方法や授業の進め方にギャップを感じている生徒が多いのではないかとと思われる。今後、校内研修などで授業指導法の向上を目指していこうと考えている。また、ICTの活用についても中学校の授業支援アプリなどの取組を参考にしながら、高校でも一人一台端末を使って教員・生徒ともに活用を進めていきたい。

（三田会長）

認識している課題については今後取組をお願いしたい。

（山下委員）

ICT活用をいち早く取り入れたフィンランドでは、学力が低下したというデータがある。今度フィンランドの大学に行くので、そのあたりの内容を調査しようと思っている。後日またその結果を御紹介したい。

(三田会長)

中学校では板書を写真に収め、ノートを取らなかったり、ネットで検索して辞書を使わなかったりする生徒がいる。デジタル化と今までの紙文化をどのように併用するのが今後の大きな課題であると思われる。

「B」評価の委員の方もいるが、概ね「A」評価であるので、この二つの項目は「A」評価ということによろしいか。

(委員全員)

意義なし

イ 「年間6冊以上本を読んだ」「図書館の利用」生徒 前年度以上

(教 頭)

年間予定の中に読書週間を組み入れ、デジタルデトックスと銘打って、スマホなどから距離を置く形で集中して朝読書を行った。今年度は生徒からの呼びかけを積極的に行い、「読書県しずおか」優秀実践校に選出された。しかし、まだ年間冊数としては目標に到達しておらず、引き続き働きかけしていきたいと考えている。

(鈴木委員)

生徒アンケートでは、朝読書はやめてほしいとの意見もあるようだが、それについてはいかがか。

(校 長)

今年度「朝読書ウィーク」として、ある一定の期間に朝読書を実施した。いつもより朝10分早く学校に来なければならなかったが、生徒たちは自主的によく取り組んでいた。大多数は賛成意見であるが、ごく一部にはそういった意見もあると認識している。来年度以降は持続可能な取組として、期末テストの後に時間とり、読書の時間を確保する予定である。

(三田会長)

大学受験を控えた生徒の放課後などの自主学習のための図書館の利用度はどれくらいか。

(教 頭)

図書館の2階には自習コーナーがあり、割と遅くまで生徒が学習で使用している。

また、進路資料室は個別ブースになっているので、そちらを好んで使用している生徒もいる。

(三田会長)

昨今のデジタル社会では本も簡単に読むことができるが、図書館に通うということが非常に大事である。今後の取組に期待したい。今回は、今後の課題を含めて「B」評価でよろしいか。

(委員全員)

意義なし

イ 各種検定への受検者数・合格率 前年度以上

(三田会長)

学校の評価が「B」であったため、委員の評価も全員「B」となったと思われるがいかがか。

(教 頭)

英検について、この数年個人で申し込み、結果も個人に通知されるので、学校で受検者数を把握できない。学校では英検対策講座を開き、資格を取得する生徒を増やす取組をしている。情報検定については、2級のみを受検であったが、教育課程変更にあわせて3級を受検も検討している。英語科も商業科も、より多くの生徒がチャレンジする機会を増やしていきたいと考えている。

(校長)

検定料が昔と比べて非常に高くなっているので、何回も受けさせることが難しい。学校としては、対策講座を受講させて、いつ受検するか目標設定を定めさせたい。

(副校長)

成果目標に合格率とあるが、経年比較が難しいところもあるので、今後指標を見直すことも検討している。

(大嶋副会長)

可否の報告は義務付けているのか。

(副校長)

報告するように働きかけはしている。英検は受検者の人数を把握できていないので、全員報告しているかどうかは分からない。

(山下委員)

大学受験にも検定合格は非常にアピールポイントになる。受検料が年々高くなっているのがネックになっていると思われる。

エ ①「生徒会活動・委員会活動は活発である」と回答する生徒 80%以上

②「学校行事は充実している」と回答する生徒 80%以上

(教頭)

保健委員会が地域の見守り活動でキャンペーンを行ったり、ヘルメット着用啓発動画を作ったりするなど、活発に活動している委員会とそうでない委員会との差が見られたため、このような結果になったと思われる。なるべく多くの生徒が活動に関われるように教員も働きかけをしている。生徒が広報活動をするということにも力を入れている。

文化祭については、生徒会以外の生徒との活動の差があるように感じている。これについても引き続き検討していきたいと思っている。

(三田会長)

色々な係によって活動は違うので、できるだけ多くの生徒が関わっていけるような取組をお願いしたい。生徒会活動・委員会活動については、来年度に向けて課題を持つという意味で「B」の評価でよろしいでしょうか。また、学校行事については全体的には充実したものができているということで「A」の評価でよろしいか。

(委員全員)

異議なし

カ ①「海外研修に関心がある」生徒 50%以上

②「国際交流に積極的に参加したい」生徒 50%以上

(教頭)

今年度5年振りに海外研修「三南の翼」を復活させ、台湾に7人の生徒が参加した。校内で研修の様子を動画で紹介したり、全校生徒の前で報告会を行ったりした。来年度は8月にマレーシアに行く予定である。現在募集をしているところであり、募集人数は6人としているが、先日の説明会では20人弱の生徒の参加があった。国際交流事業「三南の翼」を通して、関心を持つ生徒を地道に増やしていきたいと考えている。

(校長)

今年度ドイツからの留学生受入れもあった。来年度も同じくドイツからの受入れを予定している。

また、生徒は色々なことに興味関心がある中で、海外研修について50%というのは少し高い設定である。指標について検討する必要があると思っている。

(鈴木委員)

海外研修の費用は全て自己負担なのか。

(校長)

今年度の台湾研修では4泊5日で一人21万円かかったが、同窓会と後援会から3分の1の7万円補助していただいた。来年度のマレーシア研修は28万円程度かかるが、一人10万円補助していただく予定である。同窓会にも報告会を行い、支援の意識の高まりを感じている。

(山下委員)

せっくなので、校外でも発表する機会を設けたら良いのではないかな。そういう場があったらまた紹介したい。

(三田会長)

指標について検討をするということ、また課題を残していることもあり、①②とも「B」評価でよろしいか。

(委員全員)

異議なし

カ 「一部活動―地域貢献活動」 地域と交流・連携した部活動 90%以上

(鈴木委員)

地域の清掃活動について、最近はしていないのか。

(教頭)

清掃活動はコロナ禍に中断し再開していないが、また再開を検討しているところである。また地域貢献については、函嶺祭の一般公開の時に地域の子どもたちを集め、バレー教室やテニス教室を開催した。来年度からは部活動が任意加入となるため、部活動という範囲を超えて広く生徒が手を上げて参加できるような仕組みを作っていく必要があると考えている。

(三田会長)

三島南高校は昔から地域に根付いた教育活動をしている。地元の商店街との協力など、地道に少しずつ広げていっていただきたいと思う。こちらについては「B」評価ということよろしいか。

(委員全員)

異議なし

ケ ④「ICT活用力の向上に取り組んでいる」 教員 100%

(教頭)

グーグルを使った生徒への連絡やテストの採点など、ある程度スキルは身に付いていると感じる。生徒がICTを活用しているという実感を持たせられる授業をすることが課題であると思われるので、今後校内研修などで資質向上を図っていきたい。

(三田会長)

数年前に比べると、教員の意識・技術ともに向上していると思われる。子どもたちに教育効果として還元できるような手法を取り入れるための研修を行ってほしい。

(大嶋副会長)

100%という指標自体がハードルが高いのではないかな。

(校長)

教員から一方的に発信するだけでなく、生徒がどのように活用し、思考力や表現力にどのように結びつけるかが重要である。教員がどこに目標を置いているかが一致していない部分があるため数値が低くなっていることもあるので、今後指標については考えていきたい。

(三田会長)

④については課題があるということで、「B」評価でよろしいか。

(委員全員)

異議なし

- コ ①各教科、学年、分掌における「業務改善・削減のための取組」1件以上
②定時退勤日、最終退勤時刻の設定(20:00)と実施
③適切な部活動時間と休養日の設定と実施

(副校長)

管理職としては、職員室の環境を整えることが第一と考えている。風通しの良い環境であると答える職員が昨年度より増加した。

業務改善については、各教科・学年・分掌においてそれぞれが高い意識を持って取り組んでいるが、大きく変えることはしていないということで、パーセンテージが低くなっていると捉えている。

定時退勤については、毎月データをとっており、先月も昨年度同月と比較すると超過勤務時間が30分から40分少なくなっている。最終退庁時間の平均値についても、昨年より20分から30分早くなっている。遅くなりそうな職員には声かけを行うようにしている。

(教 頭)

今年度の職員アンケートによると、「職員間のコミュニケーションや集団指導体制が取れている」と回答する割合が94.4%であった。昨年は81.1%であったので13.3%も増加した。

(校 長)

不登校など様々な課題に対してケース会議を開くなど、チームで対応することが増え、一人で抱え込むことがなくなっていると思われる。

(三田会長)

定時という決められた枠の中で特定の職員が業務を抱え込んでしまうことがないように、相談しやすい雰囲気づくりをお願いしたい。

多忙化解消にはまだまだ課題がある。①②③については全体として「B」評価でよろしいか。

(委員全員)

異議なし

コ 対応クレーム件数 ゼロ

(三田会長)

クレーム件数1件ということだが、外部からの電話にもとても丁寧に対応していると感じている。「A」評価でよろしいか。

(委員全員)

異議なし

6 報告事項

(教 頭)

- (1) 部活動報告(第3回以降)
 - (2) 「つながる」校外活動報告
- (校 長)

- (3) 令和7年度学校運営協議会

ア 令和7年度委員(案)

来年度の委員は、3人が交代され、新たに植野さん、岩田さんが加わる。もう1人が未定であるが、保護者代表としてお願いする予定である。会長は大嶋副会長にお願いする。

イ 令和7年度実施計画（案）

ウ 令和7年度取組

(4) 感謝状贈呈

三田章裕 会長、鈴木廣幸 委員、村上利恵子 委員（村上委員欠席のため後日贈呈）

7 そ の 他

（寺村委員）

周りにも三島南高校に行きたいと言っているお子さんが多い。今回の「カジュアルデー」のような新しい取組に対しても楽しそうと感じているようである。また、自分の子どもも学校生活をととても楽しく過ごしている。会議に出ることによって、学校の様々な取組を知ることができて良かった。

（三田会長）

学校運営協議会は学校の最大の応援団であると思っている。困った時には、学校から離れたところからの視点での新しいアイデアもあると思うので、ぜひ活用していただきたい。

8 閉会の挨拶（大嶋副会長）

「カジュアルデー」など学校をPRできる話題づくりは、生徒の学校への誇りにも結びつくことであると思う。学校の応援団として力になれることがあれば今後も協力していきたい。